



慶光会だより

平成29年6月吉日発行 第92号

目次

研修報告 P2
事業報告 P3~5

決算報告 P6~7
新任職員紹介・お礼 P8



遊びに来てください

蒜山地区福祉運動会

日時 平成29年10月9日(月・祝)
9:30~12:00(予定)

場所 平成の森ドーム

主催 真庭市蒜山地区福祉運動会
実行委員会

デイセンターまつり

日時 平成29年9月23日(土)

場所 デイセンターまにわ

内容 ・ステージ企画
・飲食出店
・お菓子投げ等



地域ふれあいまつり

日時 平成29年8月26日(土)
時間未定

場所 ワークスひろげん

内容 ・出店
・ステージイベント



新入職員研修報告

合理的配慮について考える



のを1年後の全体職員会議に提案する。ことを目標に取り組んできました。

障害者権利条約について学ぶ

合理的配慮について考えるにあたって、まず自分たちで障害者権利条約について調べ、理解を深めることから取り組みました。その中で「言



平成28年度の新任

研修では「障害をもつ人を支えるのに必要だと思われることを見つけて出す」「障害者福祉を取り巻く世の中の流れについての知識を得ること」をテーマに、障害者権利条約について学び、最終的には「慶光会での合理的配慮について具体策を考える、法人の指針となるもの

葉の意味や解釈の仕方が解らない・良く使う言葉だけの意味を聞かれると答えられない」といったことがたくさんあることがわかってきました。各自で調べて報告しあい、話し合いを繰り返して「障害者権利条約とは何か」を学んでいきました。例えば障害者権利条約にある「他の者との平等を基礎として」という言葉の解釈ですが、知的障害を持つ人は、言語が出ないあるいは表現ができない場合があるため、本人の表情や態度、生活歴から想像し、障害のない人と同じ生活の配慮をすることが、支援者の合理的配慮として求められる。すなわち、福祉は「想像力の豊かさ」が要求される仕事であるといったことや、「権利」という言葉について「何かをするかしないかを決めること、自分の利を追求すること」と伝え、「できるからする」「できないがしたい」「できるがしたくない」などの意思を尊重すること。支援者は決して強制することなく本人の納得が得られるような支援スキルを身に付ける必要があることなどを学びました。

慶光会での考えられる合理的配慮とは

次に「合理的配慮にはどのようなものがあるのか」「慶光会における合理的配慮の必要なことは何だろう」とについて話し合いました。一般社会では、たとえば通院の際、医師からの説明が本人になされず、付き添いの家族にのみ話されるといったことなどがあげられます。

慶光会で事例を考えてみると「利用者の居室を訪問する際、ノックの返事を聞かず、入室してしまう」「着かえや排せつの介助を行う際はどうか」といったことがあげられました。

特に、身体介助の場面を掘り下げ議論を行い「トイレや着替えを他者に手伝ってもらうことについて自分ならどう思うか」というように「自分ならどうか」という視点で考え支援を行っていくことが大切であると気づかされました。

以上のような1年間の学習の成果を、報告書にまとめ、4月8日におこなわれた慶光会の全体職員会議にて発表を行いました。

新任研修では、事業所や職種ちがいを越えた集団での議論を行ってきました。参加職員からは「基礎を学び現状を知ること、自分のできることが見えてきた」「自分自身の仕事をふりかえることができ今後にかしていこうと思った」といった感想が寄せられ、実りの多い報告会となりました。



平成28年度 事業報告

蒜山慶光園

平成28年度は、昨年度に引き続き「利用者の意向を汲み取る支援」を中心課題として取り組みました。慶光園には、言葉で意思表示することが難しい人が多くいます。その人が何を願っているのか、今までの歴史やご家族からの情報を振り返ることからのスタートでした。そんな中、本人の状況が変わったことからここ数年ご自宅に帰省ができなくなっていたAさんについて、慶光園では担当職員中心に「Aさんは家に帰りたい、ご家族に会いたいと思っっているのではないか？その思いを実現できないか」と検討を進めました。ご家族とも事前に相談して予定を考え、Aさんにも伝え、まずは日帰りの帰省を実施しました。当日Aさんは、予定を伝えていたこともあつて、数年ぶりにご家族と一緒にご自宅でゆっくり過ごすことができました。Aさんやご家族のうれしそうな顔を間近で見ることができ、職員は帰省を実施できたことを本当にうれしく思いました。

これからも少しずつですが、利用者の意向を汲み取り一緒に実現させていく姿勢を大切にしていきたいと思えます。



グループハウス かわかみ



現在、入居者のうち65歳以上が約5割、平均障害支援区分4.5と、当事業所は重度・高齢化が顕著になっています。

このような中、昨年度は88歳の方が、脳梗塞を発症した後遺症が残り、当事業所での生活が困難となり介護保険サービスに移行されました。一方、新たに入居した50歳代の方が、今までの長い在宅生活から新しい一歩を踏み出し、生活介護の作業活動と合わせ、充実した生活を送ることができています。

私たちは、この2名のケースに関わらせていただき、改めて「その方の人生と一緒に考える仕事」の重みを痛感しています。当事業所の現状を踏まえ、一段と専門性、他機関等との連携を持つて重度、高齢期にある方の支援を行っていくことはもちろんですが、その根本にある「人の幸せを考える」とことについて、相手に寄り添い、そして真剣に向き合っていきたいと思えます。

デイセンター ひるぜん



昨年度は利用者の高齢化、障害の多様化など、様々な支援課題がある中での出発でした。

そのため、利用者が安心して作業または活動参加ができるための検討に力を入れてきました。検討の中で一番重要となるのが、ケース検討会議です。ケース検討会議は日中活動時の様子だけでなく、生活全般の状況を知ることにも必要不可欠です。そのため、事業所職員だけのケース検討会議ではなく、他事業所の職員にも入ってもらい多面的に本人を知ることから始めました。利用者の過去から現在までを知ること、言葉掛けや本人のわかりやすい言い方に変えるなど、支援の変化が見られるようになってきています。

私たち職員は利用者の側面だけを見て支援を決めるのではなく、今後色々な角度から利用者のよりよい生活ができる支援方法を検討していきたいと思えます。

平成28年度 事業報告

川上児童クラブ

川上児童クラブは、放課後や休校日の子どもたちの生活を、働きながら子育てをされている保護者の方と一緒に応援する事業所です。

平成28年度は1年間を通して利用された方は22名でした。「子供たちが安心して楽しく過ごすことができる」「一人ひとりが主体的に生活できる」「仲間の気持ちを理解し、信頼し合っている」「思いやりの心を育てる」ことを目標に事業をしています。子供たちは児童クラブでの過ごし方や遊びを通し、社会性や生活力が育ってきていると感じます。

また、障害のある子どもたちの子育てを行っている家族の負担軽減のため、日中一時支援事業も行っており何名かの方に利用していただいています。

今後も子どもたちを支援する地域の大人の一人として、地域に必要とされる事業を行っていきたいと思います。



フークス ひるぜん

昨年度は、「高い収入を得ることで夢や可能性を広げていく」という目標を利用者とともに確認し、スタートしました。



具体的取り組みとして、毎月の生産目標を設定し、その目標が達成できるための方法を明確化して事業を進めました。その一つが「作業間の打合せ回数増加」「作業開始前に目標数を利用者にわかりやすく伝える」ことでした。目標があることで、利用者・職員とも意欲の向上に繋がっていると思います。また、企業へ出向き仕事に取り組み利用者には、目標設定と振り返りを行うことで、作業技術の向上だけでなく社会人としての振る舞いも学ぶことができています。企業実習や清掃技術の訓練等を行なう事で、2名の利用者が一般就労することが出来ました。

現在、障害特性の多様化が進み個別支援の必要な場面が増えていきます。利用者個々の想いを丁寧に聞き取り、安定した作業参加に繋がっているケースも増えていきます。障害のある方に必要とされる事業所を目指していきたいと思えます。

グループハウス ひるぜん

昨年度の大きな取り組みとして、一人暮らしを目指す利用者の夢を叶えるための第一ステップとしてサテライト事業を開始しました。本来グループホーム事業の制度では2名以上で共同生活をする事となっていますが、サテライト事業では単身生活をする事ができます。その制度を活用し、現在1名の利用者が職員の支援を得ながら生活を送っています。単身生活の中で料理や掃除・金銭管理を覚え、夢に向けての自信が少しずつ付いてきているようです。

利用者の生活が広がるよう、映画鑑賞会、温泉クラブ、ウォーキングなど多くの企画を用意し、自己選択しながら楽しく休日が過ごせる取り組みも行っています。職員が企画した活動を通して行動範囲が広がった方もあり、休日利用者同士で買い物に出かける様子も見られるようになってきました。

今後も自己決定・自己選択ができる環境作りを力を入れていきたいと考えています。



平成28年度 事業報告

デイセンター まにわ



昨年度は知的精神、発達障害、難病など様々な状況の方の利用がありました。障害特性の違う人たちが、同じ空間で生活することで不満が出てくることもありましたが、その都度個別面談を行い困りごとや不満の解決を図っています。

就労事業では、「就労意欲の向上」と「工賃アップ」を目的に、ペットフード作業を中心に作業量の確保と施設外就労に取り組みました。施設外就労では、タイムカードを押すことがはりあいの一つになっており、安定通所につながった方もおられました。

生活介護事業では、活動の中心を作業におき社会経験に繋げる取り組みを行いました。大きな変化として、長年自傷行為をやめられなかった方が「手に血が付いていたら商品が汚れるので作業には入れなくなるとの思いから、自傷行為をやめて作業に向かうようになりました。成果の見えやすい作業には、その人の潜在能力を引き出す力があると改めて感じることができました。

グループハウス おちあい

独立を目指している方、グループホームでの生活を続けたい方が存在する中で、それぞれの自立・自律に向けて、個々が身に付けたい力に気付けるように言葉掛けをしてきました。

中でも結婚を目指している二人には、お金の使い方や大切さ、二人で生活するために必要な力などを繰り返し伝えていきました。現在は携帯電話があれば後払いで物が購入できずとも、お金の流れが見えにくいこともあり思いもよらない額の請求がきつてしまう経験もしましたが、経験することで次にやる方法を自ら学んでいくことができていると、す。

私たち支援者は失敗をさせないための支援をするのではなく、自己決定の中、失敗した後どのような支援していくのが重要だと思っています。今後色々な経験を通して前に進んでいきたいと思っています。

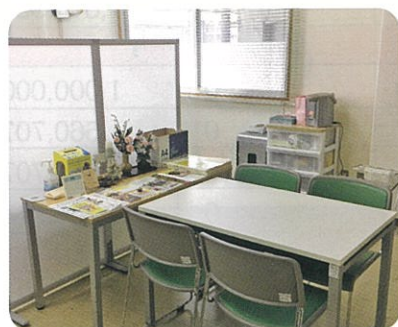


真庭地域生活 支援センター



昨年度、真庭地域生活支援センターは真庭地域では唯一の相談支援事業所として、地域に生まれ住んでいる障害者やその家族からの相談に応じると共に、その方が希望される福祉サービスへの繋ぎやそれに伴う関係機関との連絡調整を行いました。また、福祉サービスには繋がらなくても困っている、悩んでいるといった基本相談支援にも対応してきました。そのような関わりの中で地域の障害者の状況の把握や、真庭地域で必要なニーズの汲み取りにも努めました。

昨年度は訪問支援約670件、来所相談約250件、電話相談約840件等様々な支援方法で関わらせていただきました。今年度も引き続き利用者の方に寄り添いながら支援させていただきたいと思っています。



資金収支計算書

(自)平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位:円)

事業活動による収支	社会福祉事業	公益事業	合計	内部取引消去	法人合計
事業活動収入計	587,921,999	33	587,922,032	0	587,922,032
事業活動支出計	559,533,491	3,700	559,357,191	0	559,537,191
事業活動資金収支差額	28,388,508	△ 3,667	28,384,841	0	28,384,841
施設整備等による収支					
施設整備等収入計	1,000,000	0	1,000,000	0	1,000,000
施設整備等支出計	10,691,223	0	10,691,223	0	10,691,223
施設整備等資金収支差額	△ 9,691,223	0	△ 9,691,223	0	△ 9,691,223
その他の活動による収支					
その他の活動収入	2,378,392	0	2,378,392		2,378,392
その他の活動支出	35,727,632	0	35,727,632		35,727,632
その他の活動資金収支差額	△ 33,349,240	0	△ 33,349,240	0	△ 33,349,240
当期資金収支差額合計	△ 14,651,955	△ 3,667	△ 14,655,622	0	△ 14,655,622
前期末支払資金残高	252,063,800	1,831,624	253,895,424		253,895,424
当期末支払資金残高	237,411,845	1,872,957	239,239,802	0	239,239,802

事業活動収支計算書

(自)平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位:円)

サービス活動増減の部	社会福祉事業	公益事業	合計	内部取引消去	法人合計
サービス活動収益計	584,236,596	0	584,236,596	0	584,236,596
サービス活動費用計	584,993,168	3,700	584,996,868	0	584,996,868
サービス活動増減差額	△ 756,572	△ 3,700	△ 760,272	0	△ 760,272
サービス活動外増減の部					
サービス活動外収益計	3,685,403	33	3,685,436	0	3,685,436
サービス活動外費用計	1,108,243	0	1,108,243	0	1,108,243
サービス活動外増減差額	2,577,160	33	2,577,193	0	2,577,193
経常増減差額	1,820,588	△ 3,667	1,816,921	0	1,816,921
特別増減の部					
特別収益計	1,000,000	0	1,000,000	0	1,000,000
特別費用計	1,560,707	0	1,560,707	0	1,560,707
特別増減差額	△ 560,707	0	△ 560,707	0	△ 560,707
当期活動増減差額	1,259,881	△ 3,667	1,256,214	0	1,256,214
繰越活動増減差額の部					
前期繰越活動増減差額	366,072,507	1,831,624	367,904,131	0	367,904,131
当期末繰越活動増減差額	367,332,388	1,827,957	369,160,345	0	369,160,345
基本金取崩額	0	0	0	0	0
その他の積立金取崩額	0	0	0	0	0
その他の積立金積立額	30,000,000	0	0	0	0
次期繰越活動収支差額	337,332,388	1,827,957	339,160,345	0	339,160,345

貸借対照表

平成29年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
流動資産	298,500,934	流動負債	73,363,892
		固定負債	92,072,803
		負債の部合計	165,436,695
		純資産の部	
固定資産	683,980,189	基本金	169,360,348
		国庫補助金等特別積立金	278,523,735
		その他の積立金	30,000,000
		次期繰越活動収支差額	339,160,345
		純資産の部合計	817,044,428
資産の部合計	982,481,123	負債及び純資産の部合計	982,481,123

財産目録

平成29年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
流動資産	298,500,934	流動負債	73,363,892
流動資産	298,500,934	流動負債	73,363,892
現金預金	148,005,348	事業未払金	53,244,460
事業未収金	134,791,436	1年以内返済予定設備資金借入金	7,284,000
未収金	10,905,884	預り金	1,740,284
商品・製品	1,666,020	職員預り金	518,148
原材料	2,092,220	賞与引当金	10,577,000
前払金	125,000	固定負債	92,072,803
前払費用	347,026	固定負債	92,072,803
短期貸付金	568,000	設備資金借入金	59,242,000
固定資産	683,980,189	退職共済引当金	32,830,803
基本財産	571,298,681	負債の部合計	165,436,695
土地	84,101,200	差引純資産	817,044,428
建物	487,197,481		
その他の固定資産	112,681,508		
建物	3,871,942		
構築物	21,034,826		
機械及び装置	8,767,075		
車両運搬具	5,811,078		
器具及び備品	9,417,720		
権利	601,038		
退職給与引当資産	32,830,803		
その他の積立資産	30,000,000		
長期前払費用	347,026		
資産の部合計	982,481,123		



家元聡子

みなさんの笑顔につながるサポートをしっかりとでき、また私も元気をもらいながら頑張ります。



ワークスひるぜん

瀬島貴仁

昨年8月より勤務しています。毎日利用者のみなさんと作業に奮闘しています。まだまだ未熟ではありますが、みなさんの生活をサポートしていけるよう頑張ります。



ワークスひるぜん

妹尾裕子

昨年12月より相談業務をさせて頂いています。医療機関での相談業務が長くその経験を活かしながら利用者のみなさんに寄り添い、支援をさせて頂きたいと思っています。



真庭地域生活支援センター

田淵七瀬

働いて得たお金で好きなものを買うという喜びや感動を、利用者のみなさんと身近な所で共有したいと思っています。



デイセンター=ひるぜん

長澤かおる

雄大な自然と周囲の方に支えられながら毎日を送っています。いつも丁寧な支援を目指して頑張ります。



蒜山慶光園

波津久華奈

慣れないことも多くご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一人ひとりと向き合い、その方にあった支援ができるよう頑張ります。



蒜山慶光園

畑優子

去年11月に世話人として勤務しています。まだまだ至らない所ばかりですが、早く一人前になれる様、邁進してまいりたいと思います。



グループハウスかわかみ

日岡千晶

まだ分からないことや戸惑うことも多いですが、先輩方に色々教えていただきながら頑張っていきます。



ワークスひるぜん

松川弘美

今までの経験を活かし、利用者のみなさんが仕事に頑張りがちな、充実した生活を送れるようにサポートしていきたいと思っています。



ワークスひるぜん

山中和永

昨年11月より勤務しています。働く中で沢山の気づき・学びのある毎日です。至らない点がまだまだ多いですが、頑張っていきます。



蒜山慶光園

よろしくお願ひします



ありがとうございます

- ・青木怜子 様
- ・歌声サークルやまぼうし様
- ・黒岩サロン様
- ・黒住教跡地教会所様
- ・土屋隆一様
- ・日本療育犬研究会岡山支部様
- ・原田義雄様
- ・ひだまり様

